

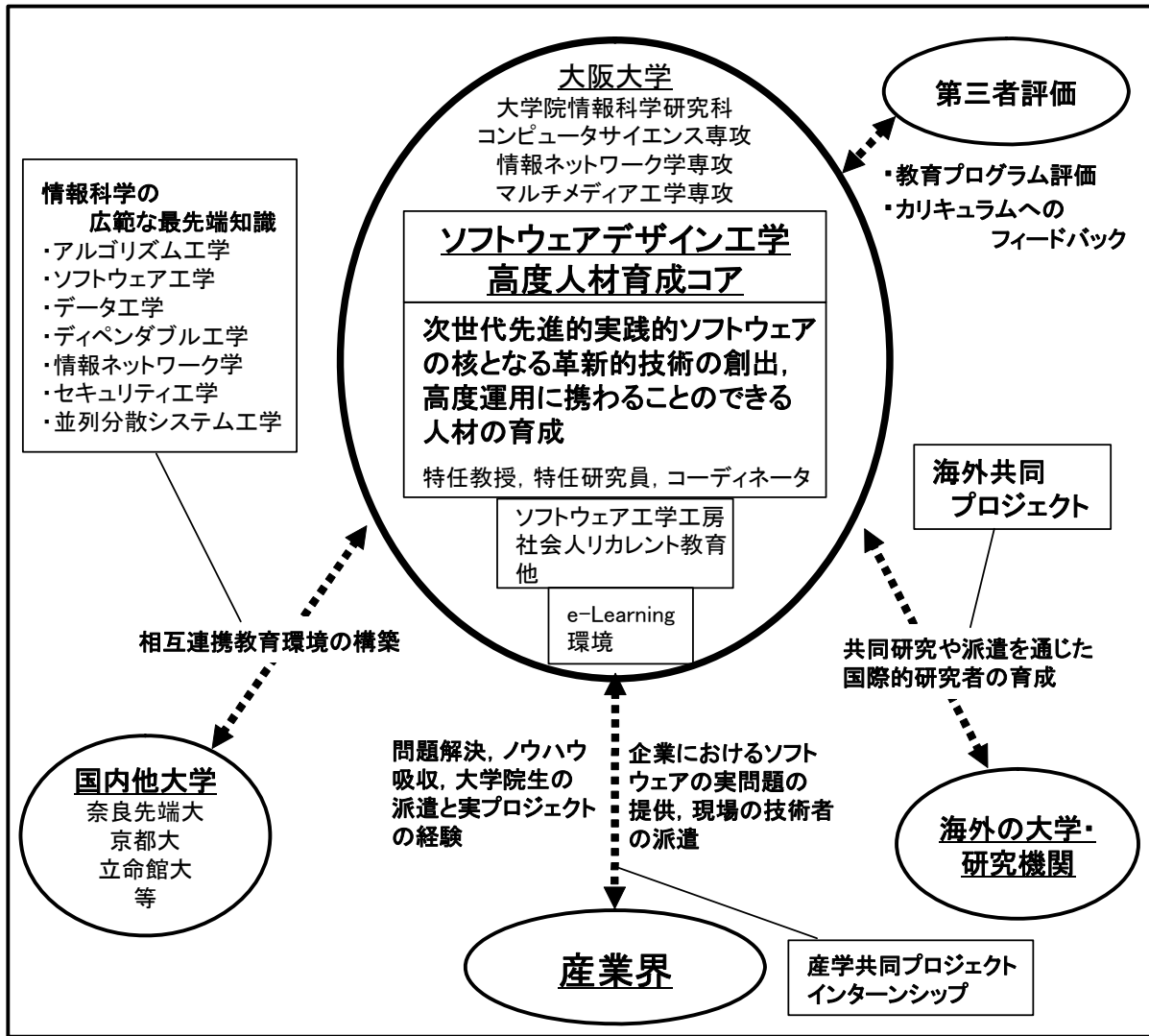
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

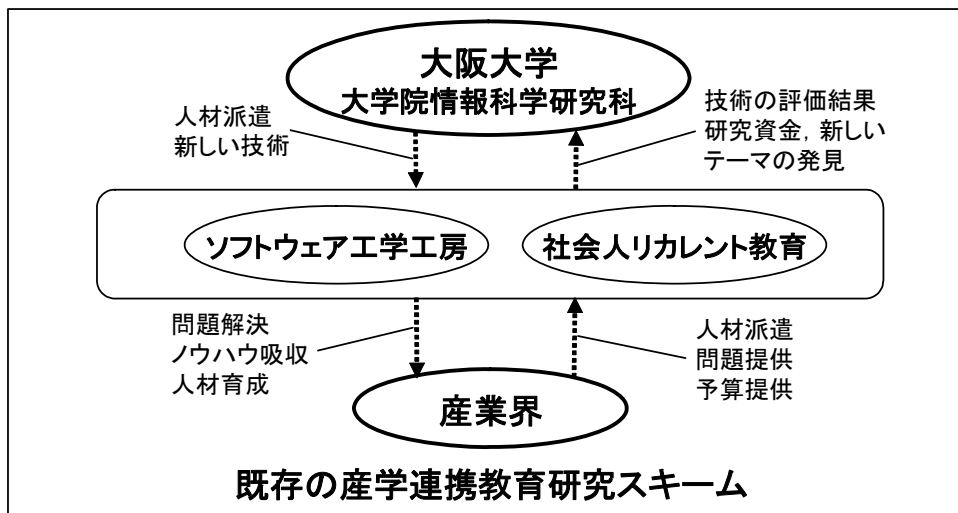
機 関 名	大阪大学	整理番号	b031
1. 申請分野(系)	理工農系		
2. 教育プログラムの名称	ソフトウェアデザイン工学高度人材育成コア		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 情報学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (ソフトウェア、計算機システム・ネットワーク、メディア情報学・データベース)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 情報科学研究科・コンピュータサイエンス専攻 [博士前期課程][博士後期課程]	<u>研究科長(取組代表者)の氏名</u> 西尾 章治郎	
	(その他関連する研究科・専攻名) 情報科学研究科・情報ネットワーク学専攻[博士前期課程][博士後期課程] 情報科学研究科・マルチメディア工学専攻[博士前期課程][博士後期課程]		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>大阪大学は、従来、学内に分散していた情報科学技術に関連する教育研究組織を改組・再編し、この分野に関する先進的で専門性の高い教育研究をより一層発展させ、世界をリードすることを目指し、平成14年4月に本事業の推進母体である大学院情報科学研究科を創設した。情報科学研究科は、その設立の趣旨に沿って卓越したさまざまな活動を展開してきている。特に、本研究科を主体とする研究教育プロジェクトが平成14年度文部科学省21世紀COEプログラムに採択され、中間評価において最高レベルの評価を得たことは、本研究科の目指す方向性の正しさと、情報技術の発展・革新に対する本研究科の貢献への強い期待の証左である。本申請で対象とする「ソフトウェアデザイン工学」は、人類が21世紀に遭遇する諸課題を解決するための重要な基盤技術であり、また、「知的もの造り」の強力なツールともなり得る。豊かな高度情報化社会を実現し、人類の幸福に大きく貢献するために、本申請により、情報科学研究科がソフトウェアデザイン工学に関わる高度人材育成のコア形成を強力に推進することを、大阪大学として特段要請するものである。</p>			

機 関 名	大阪大学	整理番号	b031
5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)			
<p>深化・拡張の極めて著しい情報科学分野における高度な研究活動に必要な、情報科学の広範にわたる最先端の知識を習得するために、情報科学研究科・7専攻が綿密に連携したカリキュラムを提供している。特に、今回の申請に関わる3専攻は教育に関して以下のような取組を実施してきた。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 実践的なソフトウェア、応用システムの開発技術を習得するための演習科目を実施している。 (2) 産業界のニーズや技術動向を知ることを目的とし、産業界の専門家による特別講義を実施している。 (3) 産業界の実プロジェクトへの参加経験を積むためのインターンシップを授業科目として実施している。 (4) 本研究科の情報技術分野の産学連携フォーラムOACISの活動等を通じて、ネットワーク設計、ソフトウェア工学、情報セキュリティ等に関する高度人材育成の教育プログラムを積極的に実施している。 			
5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)			
<p>日本経済団体連合会は、先般6月に産学官の連携を強めて人材育成を急ぐべきだとする提言を発表した。特に、情報技術を駆使して、新しいソフトウェアを開発する高度な情報技術者が近い将来大量に不足すると経済界が危機感を募らせている。本申請は、このような産業界からの強い要請に応えるもので、情報科学の広範な最先端の知識を有し、高度情報システムに対する社会のニーズを熟知し、ソフトウェアシステム開発の実プロジェクトへの参加経験を有する「ソフトウェアデザイン工学」の世界トップランクの人材育成を目的とする。特に、次世代の先端ソフトウェアの核となる革新的技術の創出、高度運用に携わることのできる人材育成を実現する魅力ある教育環境を主に以下のような観点から構築することを目指す。</p> <p>従来から本専攻では、ソフトウェア開発に関する産学連携の教育研究スキームとして「ソフトウェア工学工房」を提案してきた。これは、医学における大学病院を模して、産業界の実際の問題を工房に持ち込み、大学の知見や技術で解決を目指しており、高度人材育成に関して大きな成果を収めてきた。本申請では、そのスキームを新たな視点から発展させることを目指し、本研究科の他のソフトウェア系2専攻にも拡張し、産業界の実際のニーズに基づいたソフトウェア開発技術の体系的知識と実践経験の場を、授業や演習として提供する。本申請は博士前期課程学生を主な対象とするが、博士後期課程学生にも修士課程の演習のプロジェクトリーダーとして参加させ、マネジメントの経験を積ませる。また、海外共同プロジェクトに参加する機会も提供する。</p> <p>なお、本教育プログラムの運営マネジメントのために、ソフトウェア科学／工学の実践に豊富な経験を有する有識者を特任研究員として雇用し、魅力的で効果的な教育環境の構築を強力に推進する。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



発展



機 関 名	大阪大学	整理番号	b031
<p data-bbox="165 199 588 230">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 295 1428 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 490 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 535 1428 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 629 1225 660">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 678 1428 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に十分適合しており、その実現性も高く、一定の成果と今後の展開も十分期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 871 1206 902">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 967 635 999">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 1014 1428 1238" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="165 1014 1428 1144">・専攻の目的である「ソフトウェアデザイン工学における高度人材の育成」に即して、種々の取り組みと教育課程の編成が体系的に構築されている。特に、英語教育、産学連携、教員の資質向上、教員のきめ細かな評価(研究科長との面談)など、よく検討された優れた取組である。 <li data-bbox="165 1160 1428 1238">・ソフトウェアデザイン工学と情報ネットワーク学専攻、マルチメディア工学専攻との有機的な連携方策について明確化する必要がある。 			